

創立50周年記念

# 医学部ホームカミングデー開催のお知らせ

たけたに たけし  
医学部萌雲会（医学科同窓会）副会長 竹谷 健

残暑の候、皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

本学医学部は地域に根ざした教育・研究・医療の実践を重ね、本年度で設立五十周年の節目を迎えました。ホームカミングデーにおいては学生が特別企画を準備しており、若い世代の自由な発想が伝統と未来を結ぶ象徴となることを期待しております。

「ホームカミングデー」を下記のとおり開催いたします。

開催日：2025年10月18日(土)  
場 所：島根大学医学部講義棟3階 L3 講義室  
(出雲市塩冶町89-1)

「ホンネで語る研修医ライフー現場・キャリア・失敗談も!？」と題して、初期研修医および後期研修医の先生方に、初期研修医としての生活・選び方、専門医としてのキャリアパス、医療現場でのリアルなエピソードなどをお話いただき、今後の医学生への進路や先輩医師の未来を考える機会になればと考えております。

卒業生を含めた多くの医療従事者だけでなく多くの一般の方にも、将来の医療を担う若手医師の夢をお聞きいただけるよう、学生および教職員一同心より楽しみにしております。再会のひとときが交流を深め、新たな連携の礎となることを願っております。

今後とも島根大学医学部に変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

問い合わせ先 島根大学医学部同窓会 TEL:0853-20-2084

## 島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2025年9月15日～10月14日

対象者： 一般 一般市民 医療 医療関係者 本学 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
9月19日(金) 18:00～18:45	セミナー「造血器腫瘍のがんゲノム医療」			島根大学・岡山大学・香川大学・鳥取大学・徳島大学 連携 中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム
9月26日(金) 17:45～19:00	セミナー「人工×自然の知能で思考の解像度を高める～遺伝性腫瘍症候群編～」	ゼブラ棟2階だんだん (ハイブリッド開催)	医療 本学	(事務局) 島根大学医学部附属病院 先端がん治療センター
10月10日(金) 17:45～19:00	セミナー「遺伝性腫瘍症候群の当事者に対するリハビリテーションの可能性」			

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital  
島根大学医学部  
島根大学附属病院ニュース

2025年  
9月  
Vol.143

# NEWS



## CONTENTS

- 中表紙
- 出雲キャンパスに、次の感染症危機に備える研究拠点が完成
  - 「2025世界肝炎デー」啓発活動を行いました
- 裏表紙
- 創立50周年記念  
医学部ホームカミングデー開催のお知らせ
  - 研修会・講演会・セミナー開催情報

表紙：病院長補佐  
看護学科 臨床看護学講座 教授 山本 昌弘



# 出雲キャンパスに、 次の感染症危機に備える研究拠点が完成

新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター 特任教授 うらの たけし  
浦野 健

島根大学、医学部そして附属病院が新たに立ち上げた新しい研究センターについてご紹介いたします。未来に起こりうる感染症の脅威から皆様の命と暮らしを守るために設立しました。新型コロナウイルスのように、いつ現れるかわからない新しい感染症は、私たちの生活に大きな不安を与えます。島根大学では、そうした事態に迅速に対応できるように、新しいワクチンや治療薬を素早く研究開発するための専門チーム「新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター」を設立しました。島根大学の目標は、世界中の人々の命を守ることです。

島根大学は日本国内でのワクチン・治療薬開発をリードする役割を担っており、現在開発中の次世代ワクチンには、国からの支援もいただき、大きな期待を寄せられています。

出雲キャンパス第2共同研究棟の改修に伴い、同センターの研究拠点が令和7年3月に完成しました。5月24日(土)にはセンター開設に伴う記者会見及び内覧会、そして国際シンポジウムを大谷学長、椎名病院長、石原医学部長、齋藤研究・学術情報本部長出席のもと、開催いたしました。NHK(さんいんNEWS645)、山陰放送(BSSニュース)、出雲ケーブルビジョン(いずもキャッチアイ)、読売新聞(朝刊)、山陰中央新報(朝刊)などで報道いただきました。

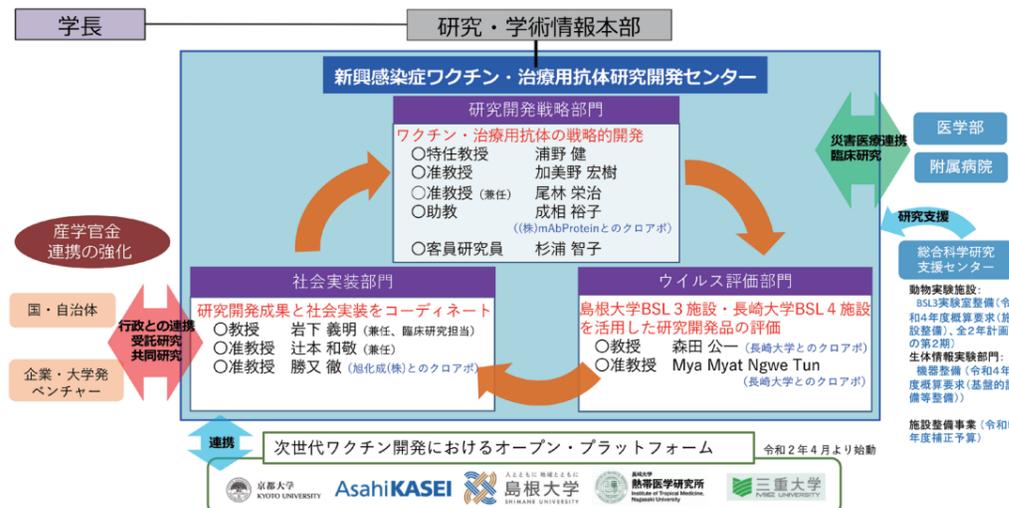
この新しい研究センターを拠点に、島根大学は研究開発をさらに加速させ、次なる感染症の脅威から、一人でも多くの人々を守るよう日々努力を重ねてまいります。

センターのHP もリニューアルしております。 HP <https://cvtaid-shimane-u.jp> R7.7.25 公開



## 新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター

**【センターの目的】**  
予測不能な新興感染症の勃発に対して、コールドチェーンを必要とせず、小児にも安心して使用できるデリバリー基材の異なる次世代ワクチン、そして治療用抗体の国内での迅速な研究開発・評価・社会実装を可能とする体制とネットワークを戦略的に構築する。



問い合わせ先 **新興感染症ワクチン・治療用抗体研究開発センター** TEL:0853-20-2127

# 「2025世界肝炎デー」啓発活動を行いました

肝疾患相談・支援センター センター長 とびた ひろし  
飛田 博史

7月28日(月)は「世界肝炎デー」(7月28日～8月3日は「肝臓週間」)でした。

当院は肝疾患診療連携拠点病院として島根県より指定を受け、肝疾患相談・支援センターを設置し、主にB型肝炎やC型肝炎に関する相談、医療情報の提供、講演会等を行っています。

このたび、2025年度肝炎対策事業の一環として、院内に啓発ポスターを掲示するとともに、世界肝炎デー当日は病院正面玄関待合ホール(写真1・2)、8月2日(土)には「よつがね夏祭り」、8月3日(日)には「松江水郷祭」にて、啓発チラシやグッズを配布し、啓発活動を実施しました。

また肝臓週間に合わせて、出雲日御碕灯台等を肝炎デーのシンボルカラーであるブルーにライトアップしました。

日本海テレビでは、世界肝炎デーについて情報番組で取り上げていただき、肝臓週間には、山陰中央テレビおよび日本海テレビにて啓発 TVCM を放映しました。(図1)

8月9日(土)には市民公開講座を開催し、100名を超える多くの方にご参加いただきました。(写真3)

なお、当センターでは肝臓病教室・家族支援講座を年に数回開催しています。最新治療や日常生活の注意点など、肝疾患に関する知識向上を目的とした内容に加え、ご家族にも役立つ情報を盛り込んだ講演を、当センターHP上にて動画配信形式で提供しております。ぜひご視聴ください。

今後とも肝疾患診療連携拠点病院の活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先 **肝疾患相談・支援センター** TEL:0853-20-2721(9:00～16:00)



肝疾患相談・支援センターHP



# お知らせ

島大病院ニュース 2025年9月

## 鼓膜再生療法のご紹介 —新しい低侵襲鼓膜穿孔閉鎖治療—

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 診療科長 さかもと たつり  
坂本 達則 かみな りえ  
講師 金井 理絵

中耳炎などで鼓膜が穿孔すると、難聴、耳漏、耳閉感などの症状が生じます。また、音が効率よく伝達されず、補聴器の装用が困難になります。従来は筋膜などの自家組織を採取して鼓膜を再建する手術が行われてきましたが、組織が生着せず穿孔が残ったり、きれいな鼓膜が形成されず症状が改善しないことも少なくありませんでした。

現在、当科では鼓膜再生療法という新しい鼓膜穿孔閉鎖治療を積極的に行っています。

2019年にこの治療法と専用キットが保険収載されました。残存鼓膜から細胞が誘導されるよう、穿孔縁を新鮮創化し、再生の足場になるゼラチンスポンジに塩基性線維芽細胞増殖因子をひたしたものを穿孔縁に接するように留置します。最後にフィブリン糊を滴下します。

小児は体動の問題があるので全身麻酔で行うことが多いですが、ほとんどの成人症例は局所麻酔下で施行可能です。皮膚切開や細胞移植は不要で非常に低侵襲です。手術時間は数十分～約1時間、術後の入院は1泊程度です。術後約1か月で鼓膜が再生します。さらに数か月かけて鼓膜の形態が整います。この治療法は自己再生力を生かした治療であるため、1回で再生が完了しない場合は複数回行うことがあります。自然な形態に近い鼓膜が再生され、良好な聴力改善が得られる可能性があります。



鼓膜穿孔でお困りの患者様や、鼓膜穿孔の有無について診察をご希望される患者さんがおられましたら、ぜひ当科にご紹介ください。

問合せ先 耳鼻咽喉科・頭頸部外科外来 TEL: 0853-20-2390



2025年9月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



# お知らせ

島大病院ニュース 2025年9月

## 病理診断センターの取り組みと今後の展望

病理診断センター センター長 にいの だいすけ  
新野 大介

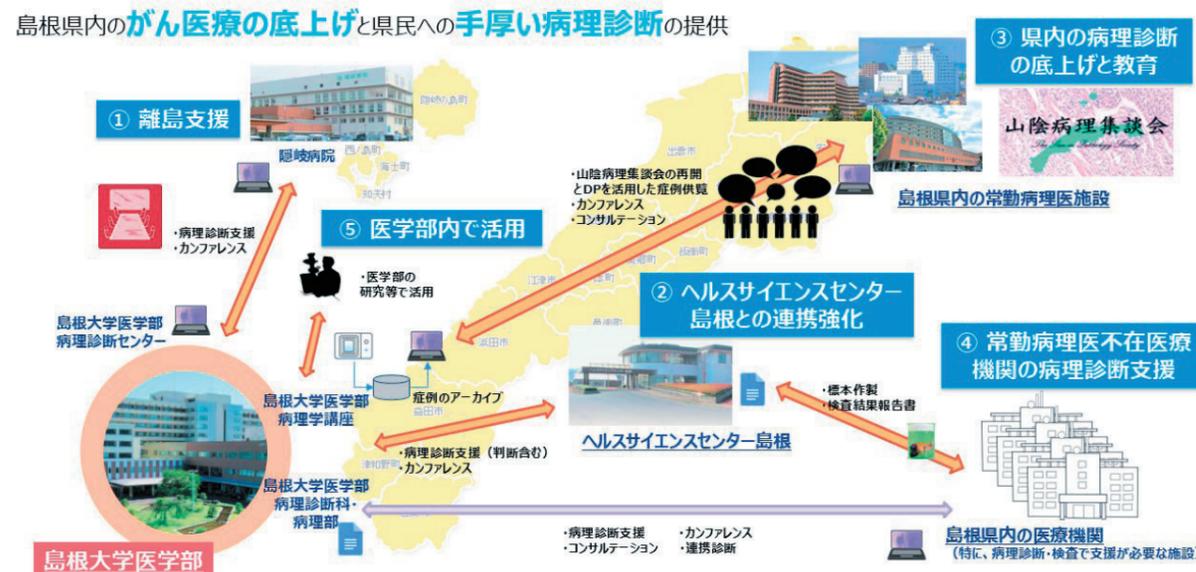
当院病理診断センターでは、島根県内のがん医療の質を高め、県民の皆さまに安心していただける病理診断をお届けするため、日々さまざまな活動を行っています。

病理診断は、病気の確定や治療方針の決定に欠かせない重要な医療の一部です。私たちは、この診断を県内どこでも確実に受けられる環境づくりを目指しています。離島である隠岐病院をはじめ、常勤の病理医がいない、または少ない医療機関に対して、検査結果の報告や診断支援、カンファレンス、症例相談などを行い、地域の診療をしっかりと支えています。

加えて、ヘルスサイエンスセンター島根や県内各病院との連携を強化し、オンラインでの症例検討や共同診断を通して、迅速かつ正確な診断体制を整えています。さらに、山陰病理集談会を再開し、デジタルパソロジーを活用した症例紹介を実施。これにより、最新の診断技術を県内で共有し、若手医師やコメディカルスタッフの教育にも力を注いでいます。診断で得られた症例は大切にアーカイブとして保存し、医学部での研究や学生教育にも役立てています。

これからも病理診断センターは、県内の医療機関と力を合わせ、より質の高い診断体制づくりと人材育成を進めてまいります。そして、一人でも多くの県民の皆さまが安心して医療を受けられるよう、地域医療の発展に貢献していきます。

### 島根大学医学部附属病院病理診断センターの取り組みと今後の展望



問合せ先 病理学講座 病態病理学事務室 TEL: 0853-20-2139



2025年9月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告

島大病院ニュース 2025年9月



医学科キャンパスツアー  
(光学医療診療部)

医学科キャンパスツアー  
(高度外傷センター)

看護学科模擬演習  
(健康教育)

看護学科模擬演習  
(呼吸音の聴取)



## 2025年度 医学部オープンキャンパスについて

学務課入試担当

8月2日(土)に医学部オープンキャンパスを開催しました。入試広報の一環として、高校生を対象に毎年行っているものです。今年度は医学科284名、看護学科186名の計470名(保護者等付添者含む)の方にご参加いただきました。

医学科では学科紹介・入試説明の後、医学英語の模擬授業やキャンパスツアーを行いました。高度外傷センターや光学医療診療部などの見学・実習は、「進学したいという気持ちが高まった」と大変好評でした。初めて企画した「高校生と医学生交流会」では、参加者から「おすすめの勉強法」や「島根大学の特色、魅力」などたくさんの質問が出ていました。

看護学科では学科紹介・入試説明の後、3グループに分かれ、呼吸音の聴取、トリアージなどの模擬演習を行いました。希望者が参加したキャンパスツアーでは、実際にキャンパス内を歩いて回ることで、普段の学生生活を具体的にイメージできる機会となりました。

今年度は、各学科で在學生と参加者の交流の場が設けられ、先輩學生から直接話を聞く中で、「入学後のイメージを持つことが出来て、より島大が魅力的に映るようになった」などの感想が寄せられました。

今年度も会場型のオープンキャンパスに加え、WEB型として、学科長による学科紹介動画や広報サポーター作成動画などを大学HPに掲載しています。当日参加できなかった方を含め、島根大学医学部の魅力について知るきっかけになることを期待しています。

問合せ先 学務課入試担当 TEL: 0853-20-2087



2025年9月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



# ご報告

島大病院ニュース 2025年9月



解析編

## データで読み解く患者満足度アンケート — 縮約モデルで探る、満足度の全体構造 —

患者満足度向上WG  
医療情報部 准教授 河村 敏彦  
かわむら としひこ

当院では過去3年間(2022~2024年度)の入院患者437名のアンケート結果をもとに、「入院生活全体の満足度」に影響する要因間の構造を可視化することを目的とした統計分析を実施しました。

今回は主成分分析を用いて複数の設問を内容別に整理し、「医師対応」「看護師対応」「生活環境」の3領域に分類しました。各スコアの累積寄与率はそれぞれ、医師対応:87.6%、看護師対応:78.2%、生活環境:75.1%と高く、第1主成分だけで、十分な情報が保持されていることが分かりました。

次に、こうして得られた主成分スコアと個別項目を組み合わせた13変数をもとに、AIC(赤池情報量基準)に基づくステップワイズ回帰を実施し、満足度に大きく寄与する要因を選定しました。その結果は、以下の表に示す通りです。

分析の結果、医師や看護師による診療・ケアの質に関わる要素も一定の影響を持つ一方で、環境整備や支援体制の充実も満足度を左右する重要な要因であることが明らかになりました。とくに「職員間の連携」や「相談員の対応」は、専門職間のチームワークや対人支援の重要性を裏付ける要因として注目されます。

今後も当院では、データに基づく継続的な改善活動を通じて、患者さん一人ひとりにとって不安のない、信頼できる医療環境の実現をめざしてまいります。

表:縮約モデルに基づく満足度の影響要因

設問内容	p値	解釈・補足
職員間の連携	0.00006	最も強い影響
生活環境スコア(PC1)	0.00026	主成分スコアで有意
相談員の対応	0.01204	対人支援が影響
食事	0.01883	食事面の満足に関連
医師対応スコア(PC1)	0.01908	有意傾向(安心感の基盤)
看護師対応スコア(PC1)	0.15163	非有意(参考値)

※「PC1」は主成分分析における第1主成分(Principal Component 1)を指し、複数の関連設問を統合した代表スコアです。

問合せ先 医療サービス課 TEL: 0853-20-2067



2025年9月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年9月

# ご報告



## 色彩あふれる和む空間です

緩和ケアセンター	センター長	おおの さとし 大野 智
緩和ケア病棟	看護師長	せのお ちえ 妹尾 千恵

当院の緩和ケア病棟には屋上庭園があり、天気の良い日には庭園を散歩することもできます。ボランティアの皆さまがいつも心を込めて手入れして下さる花壇では、四季折々の様々な花を楽しむことができます。現在はボランティアの方々のご自宅から持ち寄られた花々が、ひまわり、コスモスと共に、黄色、赤、ピンク、白と色とりどりに咲き誇り、入院中の患者さん、ご家族の皆さまに癒しと喜びを届けています(写真1、2)。

今年度より、花壇には自動散水機が導入され、より安定した水やりが可能となりました。これにより、花の管理が一層効率的になり、負担軽減にもつながっています。

ボランティアの皆さまのおかげで、花は元気に育ち、さらに大きく成長しています。ボランティアの皆さま、いつも本当にありがとうございます(写真3)。

問合せ先 緩和ケア病棟 (C病棟5階) TEL: 0853-20-2615



2025年9月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年9月

# ご報告



病室の設備を説明している様子



ベッドサイドで記録をしている場面の見学



学生同士で血圧測定をしている様子



高齢者疑似体験の様子

## 「高校生の一日看護体験」を開催しました

かわかみ としえ  
看護部長 川上 利枝

島根県および島根県看護協会の事業の一環として、8月4日(月)に県内の高校生を対象とした「一日看護体験」を開催しました。この取り組みは、看護の心や仕事の魅力を伝え、将来看護職を目指すきっかけとなることを目的としています。

今年度は、県内17校から70名の高校生が参加し、看護師体験57名、助産師体験13名に分かれて、一般病棟や手術部、クリティカル部門、NICUなど22の部署で実際の看護の現場を体験しました。また、参加者同士での血圧測定や、高齢者体験装具を使い加齢による身体機能の低下や不自由さを疑似体験しました。看護師が着用する白衣やスクラブの展示もあり、職業理解を深める機会となりました。

参加者からは、「手術室に入れると思ってなくて、とても貴重で楽しい経験をすることができた」「男性の看護師さんが一人ひとりの患者さんに寄り添った話し方をされていてすごいなと思った」「将来なりたい姿、あるべき姿を見て学ぶことができた」「看護師になりたいと漠然と思っていたが、体験を通して看護師のやりがいや仕事の内容を学ぶことができて、看護師になりたいとはっきり思うことができた」といった感想が寄せられました。

今回の体験が、看護職への関心を高める貴重な一歩となったことを嬉しく思います。今後も地域と連携しながら、看護の道を目指す若い方々の成長を、あたたかく見守り支えていきたいと思ひます。

問合せ先 看護管理室 TEL: 0853-20-2478



2025年9月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2025年9月

# ご報告



チャーター便での移動



エコーセミナーの様子

## うどんそばカンファレンス

総合診療医センター	副センター長	ながお 長尾	たいし 大志
島根県立中央病院	研修医	うじはら 氏原	ひでとし 英敏

7月5日(土)～6日(日)にかけて、島根県と香川県の総合診療に関わる人々が一堂に会する「うどんそばカンファレンス」を、隠岐島前病院(島根県隠岐郡西ノ島町)にて開催しました。

本事業は、当院総合診療医センター、香川大学医学部附属病院総合診療医センター、隠岐広域連合立隠岐島前病院の共催により実現しました。

参加者は七類港に集合し、チャーター便にて西ノ島町の別府港に到着後、徒歩で隠岐島前病院へ移動し、昼食を挟んでセッションが本格的に開始されました。



エコーセミナー後集合写真

セッション①の「とって隠岐のエコーで変わる外来診療講座」では、岡本栄祐医師(益田赤十字病院)による腹部エコー、市来智子教授(香川大学)による心エコー、そして白石吉彦センター長による運動器エコーおよび穿刺に関するレクチャーとハンズオンが行われました。

翌日はセッション②の「医学生、研修医が語る島根と香川の総合診療」で、医学生からは学部教育について、臨床研修医からは将来望む総合診療専門研修について、それぞれの視点から活発な発表と議論が行われました。その後島内の医療福祉施設(養護老人ホームみゆき荘、西ノ島町立浦郷診療所、西ノ島町立へき地三度診療所)の見学を実施し、15時に別府港からチャーター便で七類港へと戻りました。

来年は小豆島で開催予定です。ご興味のある方は総合診療医センターまでお問い合わせください。

問合せ先 総合診療医センター TEL: 0853-20-2217



2025年9月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2025年9月

# お知らせ



## ご献体についてのお願い

解剖学講座(発生生物学)	教授	ふじた 藤田	ゆき 幸
解剖学講座(神経科学)	教授	ふじたに 藤谷	まさし 昌司

医師や看護師をはじめとする医療従事者がしっかりと学び、将来、多くの方々の命や健康を守るためには、人体の構造を深く理解し、医療に携わるものとしての倫理観を身につけることが欠かせません。そのための最も大切な学びの方法が、ご遺体を解剖して学ばせていただくことです。

献体とは、「自分の亡きあと、医学のために役立ててほしい」という尊いお気持ちでご遺体を提供していただくことです。こうしたお気持ちを持ち、ご協力くださる方々のおかげで、医学の教育は支えられています。

しかし近年、献体を希望される方々の会「有終会」の会員が減少しており、島根大学医学部ではご献体が不足しつつあります。

もしこの趣旨にご理解いただき、「亡くなったときに島根大学医学部での医学教育のために自分の体を役立てたい」とお考えいただける方は、ぜひ「有終会」へのご入会をご検討ください。

ご興味を持たれた方は、お手数ですが、下記の連絡先までご連絡ください。担当者が詳しく説明させていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



慰霊碑(医の扉)

問合せ先 島根大学医学部有終会事務局 TEL: 0853-20-2585  
月曜日から金曜日の午前9時から午後5時



2025年9月 発行  
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会  
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課  
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063  
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





# ご報告

## うさぎ保育所職員対象に 一次救命処置、窒息の対処法の研修を開催しました

クリニカルスキルアップセンター センター長 ひろい なおき 廣井 直樹  
 インストラクター やすだ みさと たたの ゆうこ 安田 美聡・多々納 有子

7月30(水)、31日(木)の2日間、病院保育施設うさぎ保育所職員対象に、一次救命処置と窒息の対処法の研修を開催しました。

この研修は毎年実施しており、今年度は19名の保育所職員に参加していただきました。

食品による窒息や気候変動による気温の上昇に伴い熱中症の発生頻度や重症度が上がり、高齢者のみならず保育園や幼稚園などでの事故もしばしばニュースとなっています。保育所職員にとって一次救命処置と窒息の対処法は、子どもの命を救うために大切な技術です。今回の研修では、小児・乳児の心肺蘇生法、AEDの使用法、窒息の対処法について、知識と技術を修得することを目的として実施しました。また、いざという時に備えて、職員間で互いの役割について理解を深め、連携することの大切さを学び、急変時にはチームとして対応することの必要性も理解してもらえたのではないかと感じました。一方で、知識や技術は時間とともに低下しますので、定期的に研修を受けて能力の維持に努めていただきたいと思います。

クリニカルスキルアップセンターでは、当院に関わるすべての人の幅広い能力の向上を目指して、一次救命処置や窒息の対処法の研修のみならず、様々な研修を行っています。多くの学修機会を提供していきますので、今後ともよろしくお願いいたします。



胸骨圧迫

窒息時の対応

問合せ先 クリニカルスキルアップセンター TEL : 0853-20-2551



# ご報告



屋外のライフライン設備について説明を受けている様子

吸水用土のう袋(アクアブロック)の使用方法について説明を受けている様子

屋上ライフライン設備場所へ上がりました

## 「病院防災探検ツアー」を行いました

副看護部長 すとう さちこ 周藤 幸子

看護部では今年度より、災害発生時に看護部職員が安心して行動できる体制作りを目指し、「看護部災害対策ワーキング」を立ち上げました。メンバーは、災害看護専門看護師、災害支援ナース、副看護部長を含む計8名で構成し、活動を開始しています。

その取り組みの一環として、8月8日(金)に施設管理室の職員の協力のもと、「病院防災探検ツアー」を実施しました。院内外に設置されている防災設備やライフラインについて理解を深めることを目的とし、屋外の上水タンクや井水処理設備、医療用酸素・ガスを収納するマニホールド室、C病棟屋上の上水タンクや非常用発電機などを見学しました。

また、水害対策として院内に備えられている吸水用土のう袋(アクアブロック)の設置場所や使用方法について説明を受け、患者用食料品備蓄倉庫では、非常食が3日分備蓄されていることを実際に確認しました。参加した看護職員からは、配管故障時の対応方法や敷地内の高低差に関する質問が出るなど、防災への関心の高さがうかがえました。

今回の「病院防災探検ツアー」は、普段目にする事のない設備や備蓄の実態を知る貴重な機会となりました。災害時に慌てず行動できるよう、日頃からの備えと知識の共有の大切さを改めて実感することができました。



問合せ先 看護管理室 TEL : 0853-20-2478





# お知らせ



## 心不全と上手に付き合うために ～心肺運動負荷試験による活動量の目安を見える化～

循環器内科 診療科長

たなべ かずあき

田邊 一明

検査部 部長

やの しょうぞう

矢野 彰三

検査部 臨床検査技師

すぎはら たつや

杉原 辰哉

当院では、心不全増悪による再入院を防ぐため、患者さん一人ひとりに合った「心臓に負担のかからない活動量」を見える化する取り組みを開始しました。その中心となるのが、心肺運動負荷試験(CPX)という検査です。これは自転車を漕ぎながら呼吸の成分を測定し、心肺機能や体力の状態を詳しく評価するものです(図1)。ただし、自転車の操作が必要なため、身体の状態によっては実施が難しい場合もあります。

検査結果をもとに、患者さん専用のフィードバック用紙を作成し、無理のない運動の目安や注意点を分かりやすくお伝えしています(図2)。日常生活を一律に「制限する」のではなく、工夫を重ねながら無理のない範囲で「上手に付き合う」ことが出来るような療養支援を大切にしています。

当院では多職種チームで協力し、心不全患者さんが安心して日常生活を送れるよう、継続的な療養支援に努めてまいります。



心肺運動負荷試験(CPX)の様子  
専門資格を有する臨床検査技師が医師や理学療法士と協力しながら実施しています。



フィードバック用紙

問合せ先 生理機能検査室 TEL : 0853-20-2412

